

新刊紹介

『グリフィスと日本』

―明治の精神を問いつけた来国人ジヤノロシスト―

山下英一 著

本書は、長年にわたり、ひたむきにグリフィスの研究を積み重ねてきた著者が、これまでの諸論稿を体系づけて一体にまとめた労作である。章立ては、第一章 故郷フィラデルフィアを離れて、第二章 日本への目覚め、第三章 大名の政府・福井の生活、第四章 明治日本の精神、で、既刊の『グリフィスと福井』（福井県郷土誌懇談会、一九七九年）・『明治日本体験記』（平凡社、一九八四年）とあわせて三部作と呼称すべきものである。

著者は、現在中部大学国際関係学部で教鞭をとっており、グリフィス研究については、斯界の第一人者であるが、これまでしばしばアメリカのラトガース大学図書館を訪れて、グリフィス・コレクションを調査した。そのため、同大学のアーダス・パークス博士から、

「福井からの参勤交代の大名」だとのジョークまで放たれるほどの熱の入れようであった。これらの関連諸資料の調査研究により、『若越郷土研究』はじめ『英学史研究』・『中部大学国際関係学部紀要』などに発表した数多くの論稿に基づき、グリフィスのお雇い教師としての類いまれな人間像を見事に構築したものと見える。さらに明治以降の「日本近代化」の具体的な動向とその歴史的性格を、当時のアメリカ人研究者から、どのように理解され、評価されたかを学びとるうえでも、格好の著作として、ぜひ一読をおすすめしたい。なお本書発刊の昨年は、グリフィス生誕一五〇年にあたり、著者も、ちょうど還暦を迎えられたことで、まことに時宜を得た公刊であることを付記する。

（近代文芸社、B5判 四四二頁、一九九五年四月刊、定価三、五〇〇円）

（三上一夫）